

水路補修工事で漏水を防止



上流側（東側）を優先的にして 80 カ所の補修箇所を選んだ



ついでに削り
その平面を
専用のプレ
ートを貼り
付ける

今年度の施設長寿命化事業は金原農道脇の水路の補修することになりました。当初の計画であれば、西ノ池農道の水路を補修する予定でしたが、緊急度の高い金原農道の水路の補修を先

に行うこととしました。1月の調査作業で水路のコンクリートが傷んでいる箇所は100カ所以上あることが分かっていますが、予算の範囲名で行うことができる最大

八方原地区浸水対策事業が着々と進んでいます。九田川水路南側堤防に、暗渠を設ける工事ですが、堤防を部分的に全て削りだして一番下から作り上げていくような工事が行われています。最終的に大きなコンクリート製品を据え付けることになるようですが、その際のクレーンの作業場所の確保も重要な作業になるとのことでした。また揚水ポンプ施設に影響が出ないように細心の注意が払われています。掘削を最小限にとどめ、安全性を確保しながらの工事です。しっかり見守ってまいります。

浸水対策の決め手になる工事



掘削した土砂が隣の農地に一時的に保管されている

施工箇所は80カ所となりました。また水路を横切る出入り口部分の損傷があるため、これも補修することとしました。昨年大森農道の水路について、同じ補修を実施しましたが、その後の状況に問題もなく今年度も同様の工法を採用しました。水路のひび割れなどがあると、送られた水が漏れ出てしまうことになるので、大きなロスが出てしまいます。ま

た圃場に長時間水を張ったまま保つてとできなくなり、これも大きな無駄となります。稲作の場合、水の管理が非常に重要になり、除草剤の効果についても大きな影響が出ます。その結果、収量や作柄にも響いてくるので、こうした手当てが必要になります。これらの水路は50年以上を経過しています。むしろこの状態で維持できていることの方が驚きです。

ミリ単位の測量で確認

農業用水は樺野川の本流からくみ上げていますが、その大きな水量を一旦180メートルの送水管で東方向に送っています。この送水管について毎年春に、高さの変化を確認しています。

一時期送水管のジョイント部分からの漏水



約10メートルの間隔で測定していく。この作業のためにオートレベルなどの測量機器を自前で買いそろえています。結果的に殆ど異状はありません。しかし常に大きな負荷がかかる場所ですから、観察作業を続けていく必要があります。

が、送水管の支持土台に異常があるのではな

いかという疑いからこの作業が始まりました。

日本最高品質の「麦」に栄冠



杉山均代表がカップを、本田昇さんは賞状を持って

昨年からお伝えしてきた農事組合八方原の麦作の優秀な作柄が、全国で2番目となる大きな賞を獲得したことはご承知のことと思います。この3月2日、全国麦作共励会の表彰式に杉山代表が出席して、栄えある大賞の授与を受けられました。受賞について、杉山代表は「当初麦作について誰も経験がなく、ベテラン農家からは嘲笑されながら研究を進め、ここまでこれた。特に麦作担当の本田さ

自治会総会で新役員が決定

令和4年度の八方原自治会の総会が3月5日に公民館で行われました。3月の総会では新年度の役員人事が主なものです。今回は自治会長、公民館長が任期満了となるので、新しい役員を選出することとなりました。自治会の慣例で人事については「選考委員会」に一任することとなっています。今回もその方式で選出が行われ、新しい役員が決まりました。



新年度役員が新たに決まった内容を聞く総会参加者

次年度もよろしくお願いします

令和4年度の最後の号となりました。通算191号です。ほぼ10年にわたってこの広報紙を発行してきました。当初から地域の皆様のご理解をいただかないとこの事業は進まないと考えて、始まったものです。当初は地域全体での参加は得られま

んの熱心な取組、様々な情報の収集がこうした結果につながった。」と紹介しました。努力は必ず報われるの言葉の通りの快挙。おめでとうございます。

せんでした。しかし、すぐに多くの方の賛同を得て地域全体で活動できるようになり、農事組合法人の発足でより強力な形が取れるようになってきました。そして法律で規定される事業に成長して今日に至っています。日本の脆弱な食糧事情が厳しい状況になったときに、農地があるのか、生産ができるのか、そうした危機感から農環境保全の考えがスタートしています。

八方原自治会の総会
令和5年4月16日 午後7時より
八方原公民館大ホール